

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 人間福祉学部 |
| 大項目 | 7 国際交流 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性 |
| 小項目 | 7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院） |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|---|---|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 海外実習教育の実施とその指導体制を整備する。 | →海外実習機関の指導者の意見に基づく評価、海外実習レポートの内容、海外実習報告の内容。 | B | B | | | |
| 2. 海外語学研修により、国際的なソーシャル・サービス領域、および起業するために必要な英語に関する語学力を修得させる。 | →研修先のプログラムに基づく成績と修得単位。 | B | B | | | |
| 3. 学部内における語学を専門とする専任および非常勤講師を適切に配置する。 | →言語専門教員（専任、非常勤）の配置数。 | B | B | | | |
| 4. 多文化共生論や国際問題論といった国際理解のための科目を維持、増加させ、内容を評価する。 | →国際理解のための科目の開講と内容評価のアンケート実施。 | B | B | | | |
| 5. 課外での国際活動を推進する。 | →学生参加の国際的イベント（SIFEなど）への参加者数。 | B | B | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|-------------|---|
| ★ 小項目 7.0.1 | 7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない (方針) 国際交流については、留学制度や海外インターンシップ等国際交流に関する実習を用意し、さらに海外実習をサポートする実践教育支援室を充実させる。 (説明) 留学制度や海外インターンシップ等国際交流に関する実習を用意し、さらに海外実習をサポートする実践教育支援室の充実も図っている。国際交流に関する方針については、ホームページやパンフレット等で明示している。 |
| | 7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 (説明) 海外からの学生の受け入れ、海外への学生派遣を毎年行うことで国際交流を適切に行っている。 |
| ★ その他 | |

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

| 【人間福祉学部】 | | | 単位 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 備考 | |
|----------|--------------------|--------------|----|------|------|------|------|------|------|---------------------|-------------------------------|
| 指標1 | 国際交流協定締結機関数 | | 機関 | / | / | - | - | - | - | ・5/1現在 | |
| 指標2 | 国際交流協定締結国数 | | 国 | / | / | - | - | - | - | ・5/1現在 | |
| 指標3 | 海外からの受け入れ学生数 | 国数 | 国 | / | / | - | - | - | / | | |
| | | 外国人留学生 | 正規 | 人 | / | / | 8 | 13 | 17 | 26 | ・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 |
| | | | 交換 | 人 | / | / | 0 | 0 | 0 | / | ・累計数 ・交換は正規以外とする。 |
| | | 外国人留学生在籍学生比率 | 正規 | % | / | / | 2.5 | 2.1 | 1.7 | 2.0 | ・外国人留学生÷在籍学生数 |
| | | | 交換 | % | / | / | 0.0 | 0.0 | 0.0 | / | |
| | その他(セミナー等による受け入れ) | 人 | / | / | - | - | - | / | | | |
| 指標4 | 海外への派遣学生数 | 国数 | 国 | / | / | - | - | - | / | ・累計数 | |
| | | 人数 | 長期 | 人 | / | / | 0 | 11 | 10 | / | ・累計数 ・1学期以上を「長期」 |
| | | | 短期 | 人 | / | / | 0 | 10 | 9 | / | ・累計数 ・1学期未満を「短期」 |
| | | 在籍学生比率 | 長期 | % | / | / | 0.0 | 1.8 | 1.0 | / | ・海外へ派遣した学生数÷在籍学生数 |
| | | | 短期 | % | / | / | 0.0 | 1.6 | 0.9 | / | |
| 指標5 | 海外からの受け入れ教員数 | | | | | | | | | ・累計数 ・1年間以上を「長期」 | |
| 指標6 | 海外への派遣教員数 | 長期 | 人 | / | / | 1 | 1 | 0 | / | ・累計数 ・1年間以上を「長期」 | |
| | | 短期 | 人 | / | / | 43 | 55 | 71 | / | ・累計数 ・1年間未満を「短期」 | |
| 指標7 | 国連ボランティア(UNV)の参加者数 | | 人 | / | / | - | 0 | 0 | / | ・累計数 ・春・秋の合計 | |
| 指標8 | 外国人教員比率 | | % | / | / | / | 9.8 | 9.5 | / | | |

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

(その他の指標)
協定校と相互交流数(学生・教員)
国別国際交流協定締結先機関数
国別留学生数(学部別)の経年変化

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-------------|---|
| 小項目 7.0.1 | 国際交流に関する実習を用意し、さらに海外実習をサポートする実践教育支援室の充実も図ったことにより、国際交流に関する成果が上がっている。 |
| ☆ 小項目 7.0.2 | 外国人留学生の割合が増えている。 |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-------------|--|
| 小項目 7.0.1 | |
| ☆ 小項目 7.0.2 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

| 【点検・評価 (2)】改善すべき事項 | | 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。 |
|--------------------|--|-------------------------------|
| 小項目 7.0.1 | | |
| ★小項目 7.0.2 | | |
| その他 | | |

↓

| 《次年度に向けた方策(2)》改善方策 | | 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。 |
|--------------------|--|--|
| 小項目 7.0.1 | | |
| ★小項目 7.0.2 | | |
| その他 | | |

◎自由記述

| 《点検・評価》《次年度に向けた方策》 | |
|--------------------|--|
| ★その他 (自由記述) | |

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○実践教育支援室を設け積極的に海外教育実習や語学研修を進めており評価できます。

【学内委員】

○外国人留学生が増加しており、国際交流の成果と思われ、評価できます。

○海外実習教育は貴重な取り組みであり、高く評価されると思います。ただ、その具体的な内容（実習内容・派遣先の国名・受け入れ機関名等）についての紹介がある（例：海外語学研修についてはカナダ・クイーンズ大学）と、よりわかりやすいでしょう。

○国際交流の方針とは、人間福祉学部の目指す国際交流のありかたではないでしょうか。記述された方針は、方針を実現するための方策に思えます。

○小項目 7.0.2の説明は不十分と言わざるを得ません。

○「成果があがってる」「増えている」などの記述がありますが、数字や根拠を示す必要があるでしょう。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・小項目 7.0.2の現状説明において、適切に行っている根拠を示して説明されることが望まれます。

・海外への学生派遣の実態について説明をしてください。

・効果が上がっている事項の小項目 7.0.1において、増加している数値をお示しください。

・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目 7.0.1 (方針)

方針とは国際交流の実施体制のことだと理解していたため、海外語学留学制度や海外インターンシップ等の実習、それらの実習をサポートする実践教育支援室のことを明記していた。しかし、委員の方からそれは方策であり、方針ではないと指摘を受け、方針とは理念、目的のことだと理解できた。そのため、方針を「学部独自の国際交流に関する方針は定めていないが、世界市民の育成を目指すために、グローバル化した社会に必要な国際的視野や言語運用能力を養うという全学的な方針の一翼を担う」とする。

○小項目 7.0.1 (説明)

カナダのクイーンズ大学への留学制度やフィリピンやオーストラリアへの海外インターンシップ等国際交流に関する実習を用意し、さらに海外実習をサポートする実践教育支援室の充実も図った。

★小項目 7.0.2 (説明)

海外からの学生の受け入れ数は2008年度から毎年増加している。また、海外語学研修（カナダ・クイーンズ大学など）として長期、短期を合わせ19名の学生を派遣し、海外インターンシップにおいてもフィリピンやオーストラリアなどに学生を派遣した。

○効果が上がっている事項小項目 7.0.1

国際交流に関する実習を用意し、さらに海外実習をサポートする実践教育支援室の充実も図ったことにより、19名の学生を海外へ派遣することができたり、留学生の割合が向上するなどの成果が上がっている。

○効果が上がっている事項小項目 7.0.2

国際交流に関する実習を用意し、海外実習をサポートする実践教育支援室の充実も図ったことにより、海外語学研修や海外インターンシップに学生を参加させることができている。さらに、外国人留学生の割合は1.7%から2.0%へと増加している。